「トップセールスレディ育成塾」15周年イベントにて
（最前列中央が朝倉氏）

た。けれども二〇〇三年の一月二十九日に、帝国ホテルタワーの十五階にあるイギリスのリージャスっていうレンタルオフィスを見た時に、無謀にもここで女性限定塾をやりたいと思いまして、一月三十日に決断して、三十一日にサインしたんです。

まだ独立間もない頃で、収入も十五万円しかなかったんですけど、そのオフィスがたった三坪でビックリするような家賃なんです。いくらだったと思います？　七十万円ですよ。

片岡　あぁ、七十万円。

朝倉　周りからは、頭がおかしくなったのかと。絶対に無理だからやめなさいって猛反対されました。でも、私は何が何でもそこでやりたかった。先ほど片岡さんがおっしゃった腹の主が騒いで、もう居ても立ってもいられないんです。

結局二月一日から帝国ホテルタワーに事務所を構えたんですが、そこから気の流れがワーッと変わるんですね。それまでこちらからお客様のもとに出向いていたのが、帝国ホテルでどんな仕事をしているのかって、お客様のほうから訪ねてくださるようになったり。そして九月に一期生十四名を迎えて女性限定塾を開講して、おかげさまでこの九月二十九日には十五周年イベントを開催できたんです。

片岡　素晴らしいですね。それにしてもひと月七十万円って、百人いたら百人とも反対すると思うんですよ。それでも朝倉さんが契約を決断できたのはなぜですか。

朝倉　これをやらないと一生後悔すると思ったんです。もちろん当時の私には、月に七十万円の家賃はどう考えても払えっこない。家賃は給料の三分の一以下に抑えないって言われることは分かっているわけです。

だけどここで開講すれば、まず帝国ホテルというブランドの力をいただけます。住所も千代田区内幸町一・一・一でナンバーワン・ワン（笑）。誰もが知っている場所だから宣伝広告費も要らないし、女性が安心できて、オシャレをして通える空間。これは絶対譲れないと思った時に、家賃の三倍稼げばいいんだって発想を変えたんです。自分やパートさんの給料含めて最低二百五十万円は要りますから、自分で営業して自分で講師を務めて、一所懸命稼ぎ始めたんです。

何が私にそこまでさせたんだろうって考えると不思議ですけど、あの決断があったからこそいまがあることは確かです。女性の自立を支援したいという当初の思いを貫いていて、女性限定塾の卒業生は全国二千五百人に達しています。

女性が変われば家庭が変わり、会社も変わります。女性が本当に賢くなれば、世の中は絶対によくなりますから、もっともっと魂を磨いて、周りによい影響を与える女性が増えてほしいんです。

二つの矢を持つことなかれ

片岡　僕がボクシングを始めたのは、三十二歳で一番忙しい頃でした。そんな時にレギュラー以外の仕事を減らして、一年かけてライセンスを取るって言うもんだから、周りは当然反対する。事務所の社長にも「二年先まで予定が入っているのに、怪我をして支障が出たらどうするんだ」って言われました。でも、その二年先の仕事が終わった後の保証はないんですよ。

もちろんお世話になっている事務所に迷惑をかけられないから、芸人としてやるべきことはしっかりやる。けれども、それ以外に一人の人間としての僕の人生というものがあって、そこがしっかりしていないと先がないんですとお願いして、社長に認めていただいたんですけど、それはもう自分の根源的な所から湧き上がってくる思いでしてね。きっと朝倉さんも、そういうやむにやまれぬ思いと、それを信じて実行する行動力に突き動かされて、やってこられたんじゃないかと思うんです。

朝倉　社員によく言うんですけど、何かを掴もうと思っても、手に他のものを握り締めていたら掴めませんよね。本当に欲しかったら一回捨てなさいと。中途半端に執着していたら、それ以上大きなものは絶対手に入れることはできませんから。人生の中で何回かは、そういう決断をしなきゃいけないタイミングってあると思うんです。

私にとってそのタイミングは、片岡さんと同じ三十二歳の時でした。二十三歳で結婚して、二十四歳、二十六歳で子供を産みました。でも、人生これからのほうが長い。このままではダメだと思って、三十二歳で思い切って離婚して、子供を連れて家を出たんです。

あの決断がよかったのかどうかはまだ分かりません。悲しい思いもたくさんしましたけど、それがあっていまがあるっていうのが正直な気持ちです。やらない後悔よりやった経験と考えて、思い切って行動を取ったのが、先ほどお話しした帝国ホテルにオフィスを構えた時と、この離婚の時で、この二つは私の人生の中でも大きな転機になりましたね。

片岡　ご自分をしっかり信じていらっしゃるんですね。『徒然草』に「初心の人、二つの矢を持つことなかれ」という言葉がありますけど、矢が二本あると思うとどうしても真剣に射抜けない。この一本しかないと思わないとダメなんですね。

朝倉　全くおっしゃる通りです。人間関係も一緒で、また会えると思うから手を抜くんですね。でも、きょうが最後かもしれないと思ったら、絶対に手抜きをしないはずです。

私は子供を連れて家を出ましたけど、経済力がなくて、結局子供と離れざるを得なくなりました。それでもいつか子供と一緒に暮らす日を夢みて、三つの仕事を掛け持ちしてがむしゃらに働いていたんです。あの頃の写真を見ると、もうガリガリに痩せているし、三時間くらいしか寝ていないから目の下にクマができているし、とにかく酷い状態でした。

そんな時にあるお客様から、一つの仕事に絞りなさいと言われたんです。偉業を成した人で、仕事をいくつも掛け持ちしている人はいない。一つのことに徹底的に集中して、それがうまくいってから次をやりなさいと。そのおかげで新規開拓営業の仕事に絞り込み、未経験ながら一年でトップを取ることができたんです。独立した時に社名を「新規開拓」にしたのは、それがあったからなんです。

だからやっぱり、力を分散するなということですよね。まずは一つのことを極めていくことがとても大切だと思います。

その仕事で魂は歓喜しているか

片岡　営業でトップを取られた後に独立されたのはなぜですか。

朝倉　このまま勤めていても、借金は返せないと思ったんです。それで、ネットワークビジネスを始めて最高タイトルも取ったんですが、そうやってお金を追いかけているうちにだんだん虚しくなって、今度は社員教育の仕事一本でやっていくことにしたんです。

でも第三者って本当に無責任ですよね。私がネットワークビジネスを始めるって言うと「そんなネズミ講みたいな仕事はやめろ」と散々言っていたのに、一年で最高タイトルを取った途端に「おまえはやると思ったよ」と（笑）。

片岡　いい加減なものですよね（笑）。

朝倉　そんな他人の意見を聞いてフラフラしていたら、絶対後悔します。うまくいかなくても自己責任と肚を括って、自分が決めたことは全うしろというのが、いろんな失敗を経て得た教訓です。ですから、内なる声が「行け！」って言った時は、ブレーキがかからないんですよ。

片岡　よく分かりますね。もちろん食べていかなければならないけれども、大事なのは志の部分だと思うんです。どう生きるか、魂が何を求めているか、その仕事で魂が歓喜できているかっていうことがものすごく大事だと思います。

僕もこれまで、根源的に自分がやってみたいと思ったものしかやっていないんです。お金が儲かるとか、成功するとか、才能があるかっていうのは全く関係なくやってきました。そもそもうちの両親から、勉強しろって言われたことがないんですよ。

朝倉　うちも一度もないです。

片岡　僕はそれを額面通りに受けて本当に勉強しなかったから、成績もペケから二番目くらいでね。